



ちいはな手



令和4年6月 第46号

社会福祉法人 開設済生会 済生会川口乳児院

〒332-0021 埼玉県川口市西川口 6-9-7

TEL 048-256-8500

FAX 048-256-9870



新年度になり、児童の在籍名簿を見ると平成生まれの児童が3名になっていました。令和4年になってもまだ異動が出来ず就学直前まで在籍するのかなと思っています。児童の背景は色々ありますが、乳児院で月齢が上がっていくと年齢や体格の違いなどで生活場面での職員の負担が増えています。また、コロナ禍で受入先からの要望や制限も以前より増えており、次の異動先が中々決まらず大変な時を迎えたと思うこの頃です。今後まだまだ続きそうなコロナ禍ですが頑張ってまいります。



副師長 田島 淳子

紫陽花が色鮮やかに咲く季節となりました。当院の周辺でも色々な紫陽花を見ることが出来るようになりました。さて新型コロナウイルス感染症第6波がピークを越えて、少しずつ子ども達の活動も増えてきました。感染対策のために時間や人数に制限がありますが、注意しながら実親・里親の面会、保育実習生の受け入れを再開しました。家庭支援、里親支援は乳児院での大きな役割であります。子ども達が早く家庭に帰れるよう、また里親さんと一緒に暮らせるよう感染に注意しながら役割を遂行していきたいと思います。



クラス・新入職員紹介



～海組クラス紹介～

新入職員 2名を迎え新年度がスタートしました。

歩き始めた子ども達が幼稚園クラスへ異動となり、より乳児クラスらしい雰囲気となっています。少人数で過ごすことを心掛け、1人1人の気持ちに寄り添い沢山の笑顔を引き出していくたいと思います。また、コロナ禍ではありますが、少しずつ社会経験の機会を作りたいと思います。



海組



～海組新入職員より～

☆都内の乳児院で保育士として働き、一度保育の仕事から離れましたが、再び保育の仕事がしたいと思い昨年9月に入職しました。まだまだ分からない事だらけですが、今までの経験を活かし子ども達と関わっていきたいと思います。

☆乳児院の保育士として、子ども達に寄り添い、たくさんの愛情を注ぎ、温かい保育をしたいです。子ども達が笑顔で過ごすことが出来るよう、一日一日を大切に保育します。精一杯頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

☆これまで保育園や他の乳児院で働いた経験がありますが、一から学び直すつもりで日々奮闘中です。

子ども達と過ごす一瞬一瞬を大切にし、皆が笑顔で過ごせるように自分も笑顔で頑張っていきたいです。

☆小さい頃からの夢であった保育士として働くことができ、嬉しく思います。子どもとたくさん関わって色々な事を経験し、子ども達と一緒に日々成長していきたいです。様々な面でご迷惑をお掛けしてしまうと思いますが、精一杯頑張ります。



～空組クラス紹介～

4~5月で子ども達の入れ替わりもあり、新しい顔ぶれで新年度がスタートしました。1年前お兄さんお姉さん達にお世話をされて泣いていた子ども達が今度はお世話する側に成長しています。コロナ禍で子ども達の生活も制限されてしまっている部分もありますが、アイディアを出し合って子ども達の笑顔が溢れる日々を過ごしていきたいと思います。



空組



～空組新入職員より～

☆悪戦苦闘の日々ですが、子ども達の笑顔に励まされています。

以前、児童養護施設で主に小学校に上がる前の子ども達の成長をみてきた経験を活かし、子ども達が健やかに育つよう頑張りたいと思います。



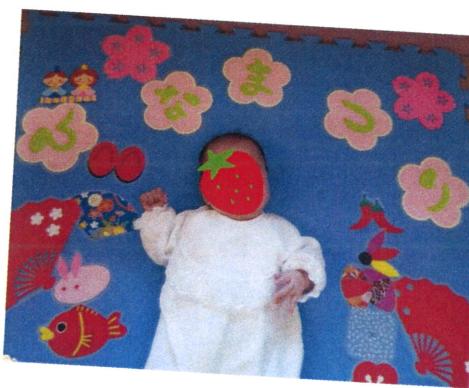
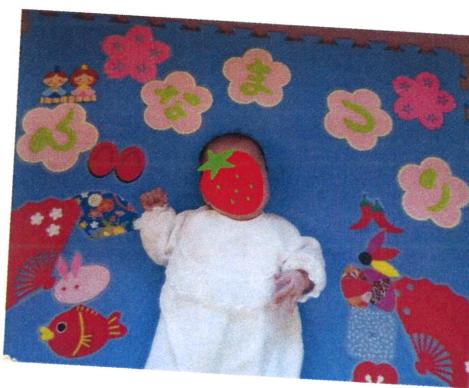
～虹組クラス紹介～

医療ケア児の男の子4人と女の子1人で新年度をスタートしました。

- ・昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、クラス交流を控えた生活が続いています。
- ・基本的な感染予防対策で子どもを守り、1人1人の特性を十分理解し「その子らしさ」を大切に看護・養育を展開していきたいと思っています。



ひなまつり



5月5日は子ども達の健やかな成長と健康を祈る日です。当日は兜の前で写真撮影をしました。じっと兜を見つめ不思議そうな顔をしている子や怖がって泣いてしまう子、皆色々な表情を見せてくれました。おやつには柏餅を食べました。ツルツル、ペタペタする感覚を楽しんでいる子や甘いあんこを美味しそうに食べる子など、普段あまり食べないお餅に興味津々でした。お風呂には菖蒲の葉を浮かべ、触った感覚を楽しんでいました。大人も一緒に楽しむ事ができ、思い出に残ることのになりました。



済生会川口乳児院

〔理念〕

済生会の社会的役割を理解し、心身共に健やかに成長できる保育看護を提供し、児童と保護者を支援します。

〔基本方針〕

1. 根拠に基づいた適切な養育の提供。
2. 児童の権利を尊重し、健康と安全性を高める。
3. 親子の絆を大切に、家庭との信頼関係を築き連携を図り家庭復帰を支援する。
4. 病気や障害を持つ児童は、必要な医療を受けながら健康に育つよう援助する。